常葉大学
自己点検・評価報告書

令和３年度

常葉大学 自己点検・評価委員会

目　次

Ⅰ　総評　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

Ⅱ　第１段階評価の担当部署　・・・・・・・・・　3

Ⅲ　各基準における自己点検・評価のまとめ

基準２　内部質保証　・・・・・・・・・・・・・　3

基準４　教育課程・学習成果　・・・・・・・　5

基準５　学生の受け入れ　・・・・・・・・・・　13

Ⅳ　外部評価委員会による評価の概要　・・・　15

Ⅴ　自己点検・評価委員会名簿　・・・・・・・・　15

Ⅰ　総 評

平成 30 年度に「常葉大学自己点検・評価実施方針」を改正し、現在のような４段階の評価を規定した。第１段階評価は学部や部署単位の自己点検・評価、第２段階評価は自己点検・評価委員会による第１段階の自己点検・評価に対する適正さの点検・評価、第３段階評価は自己点検・評価委員会による大学全体の観点から点検・評価、第４段階評価は外部評価の４段階による評価を行っている。改正した翌年、令和元年度から評価を始め、今年度で３回目を迎えた。初年度は、学部や部署でもどのように自己点検・評価を行うのか、根拠資料は何を用意すればいいのかなど手探りの状態であった。現在では、学部や部署が、未達成の項目に積極的に取り組み、組織的にＰＤＣＡサイクルが機能してきていることが今年度の点検・評価で明らかになった。

「常葉大学自己点検・評価実施方針」に定めた全１０項目の自己点検・評価の基準のうち、昨年度の自己点検・評価で達成度が十分でなかった、「基準２　内部質保証」、「基準４　教育課程・学習成果」、「基準５　学生の受け入れ」の３項目について、本年度、再度の自己点検・評価を行った。その結果、該当の研究科、学部及び部署が行った第１段階評価では大きく改善が見られ、第２段階評価でも概ね「評価は適切である」と評価され、着実に課題解決に取り組んでいることが確認された。しかし、一部「適切でない」と評価された項目もあり、その理由として、昨年同様、根拠資料の不足や抽象的な記述で具体性に乏しいといった指摘があった。これらの点については、今後も継続して改善していく必要がある。上記３項目の基準における点検項目数は、２７項目であった。そのうち、研究科・学部等における評価の及第点の割合は９２％、各部署の評価の及第点の割合は９５％となっており、第２段階評価においては、研究科・学部等は８８％、各部署は８３％がその評価は適正とされていることから、学部、研究科及び部署において、改善及び適正な自己点検・評価に努めていたことがうかがわれる。

第４段階評価である３名の外部評価委員からの評価についても、「自己点検・評価は概ね適切に行われている」との評価をいただいた。今後も引き続いて課題解決に努め、ＰＤＣＡサイクルを回しながら、より高い目標を掲げて、教育研究及び業務の向上に努めていくこととする。

なお、令和２年度の自己点検・評価項目は、令和元年度の自己点検・評価の結果、十分に達成できなかった項目について点検・評価を行っている。そのため、学部によって点検・評価項目が異なっている。

Ⅱ　第１段階評価の担当部署

基準２	「内部質保証」	学部、研究科、学長室
基準４	「教育課程・学習成果」	学部、研究科、教務部
基準５	「学生の受け入れ」	学部、研究科、入学センター

Ⅲ　各基準における自己点検・評価のまとめ

基準２ 内部質保証

④ 教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか。

（2）公表している場合、その情報の正確性、信頼性はどのように確保しているか。

学部：学部よって異なるが、大学広報委員、学科長を中心に情報の精査・確認を行っている。各学部の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は全１０学部において本項目の自己点検・評価を実施し、その結果、「十分確保している」と評価したものは２学部、「ほぼ確保している」と評価したものが６学部、「やや不十分」と評価したものは２学部であった。本年度も、すべての１０学部に自己点検・評価を行った結果、「十分確保している」と評価したものが４学部、「ほぼ確保している」と評価したものが６学部であり、「やや不十分」又は「確保していない」と評価した学部はなかった。第２段階評価では、１学部を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては改善がみられた。

研究科：研究科によって異なるが、複数の教員によって情報の精査を行っている。各研究科の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は４専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「十分確保している」と評価したものが１専攻、「ほぼ確保している」と評価したものが３専攻であった。本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「十分に確保している」と評価したものが２専攻、「ほぼ確保している」と評価したものが３専攻であった。第２段階評価では、１専攻を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては改善がみられた。

学長室：本年度、本項目において「ほぼ確保している」と評価し、第２段階評価も「適切である」と評価された。

●今後の課題

教育研究活動、自己点検・評価結果などの状況は、ホームページで積極的に公表している。すべての学部・研究科で情報の正確さや信頼性を十分に確保するため、各学部・研究科において継続的に組織的かつ定期的な検証の必要がある。

⑤ 内部質保証システムの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

（１）各学部、学科又は課程では、適切な根拠（資料、情報）に基づいて内部質保証システムの自己点検・評価を行っているか。

学部：昨年度は６学部において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「行っている」と評価したものが３学部、「行っていない」と評価したものが３学部であった。本年度、１０学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「行っている」と評価したものが９学部、「行っていない」と評価したものが１学部であり、改善がみられた。第２段階評価では、３学部を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては改善がみられた。

研究科：昨年度は４専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「行っている」と評価したものが３専攻、「行っていない」と評価したものが１専攻であった。本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「行っている」と評価したものが４専攻、「行っていない」と評価したものが昨年度同様に１専攻であった。第２段階評価では、１専攻を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては改善がみられなかった。

学長室：本年度、本項目において「行っている」と評価し、第２段階評価も「適切である」と評価された。

（２）評価を行っている場合、各学部、学科又は課程では、その自己点検・評価結果に基づく改善・向上を行っているか。

学部：昨年度は９学部において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「行っている」と評価したものは４学部、「行っていない」と評価したものが５学部であった。本年度、１０学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「行っている」と評価したものは９学部、「行っていない」と評価したものが１学部であり、改善がみられた。第２段階評価では４学部を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては引き続き改善に取り組む必要がみられた。

研究科：昨年度は４専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「行っている」と評価したものが４専攻であった。本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「行っている」と評価したものが４専攻、「行っていない」と評価したものが１専攻であった。第２段階評価では、１専攻を除き「適切である」と評価された。

学長室：本年度、本項目において「行っている」と評価し、第２段階評価も「適切である」と評価された。

●今後の課題

内部質保証システムに基づき、各学部・研究科において自己点検・評価を行っているが、その結果に基づく改善・向上はすべての学部・研究科で実施されていない。自己点検・評価結果から明らかになった課題に対して、具体的に改善へ取り組むよう、各学部・研究科において組織的な体制を整える必要がある。

基準４ 教育課程・学習成果

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

各学部、学科又は課程では、次の各項目についてどのように対応しているか。

（あ）教育課程の実施方針と教育課程の整合性・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮

学部：教学マネジメントの取組において、学科ごとにカリキュラムマップの更新やナンバリング・コードの策定など、教育課程の整合性、順次性及び体系性を組織的に担保している。各学部の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は７学部において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「十分確保している」と評価したものが１学部、「ほぼ確保している」と評価したものが６学部であった。本年度は、すべての１０学部に自己点検・評価を行った結果、「十分確保している」と評価したものが７学部、「ほぼ確保している」と評価したものが３学部であり、「十分確保している」との評価が１学部から７学部へ増加した。第２段階評価では、１学部を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては改善がみられた。

研究科：研究科においてもカリキュラムマップの更新やナンバリング・コードの策定など、教育課程の整合性、順次性及び体系性を組織的に担保している。各研究科の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は２専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「十分確保している」と評価したものが１専攻、「ほぼ確保している」と評価したものが１専攻であった。本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、すべての専攻で「十分確保している」との評価であった。第２段階評価では、３専攻を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては引き続き改善に取り組む必要がみられた。

教務部：本年度、本項目において「十分確保している」と評価し、第２段階評価も「適切である」と評価された。

（う）個々の授業科目の内容及び方法

学部：毎年、シラバスチェックを行い個々の授業科目の内容及び方法について確認を行っている。各学部の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は８学部において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に十分に基づいている」と評価したものが１学部、「個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に概ね基づいている」と評価したものが７学部であった。本年度、１０学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「十分に基づいている」と評価したものが４学部、「概ね基づいている」と評価したものが６学部であり、「十分に基づいている」との評価が１学部から６学部へ増加した。第２段階評価では「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては改善がみられた。

研究科：研究科においても、毎年、シラバスチェック行い、個々の授業科目の内容及び方法について、確認を行っている。各研究科の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は１専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）に概ね基づいている。」との評価であった。本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）十分に基づいている」と評価したものが４専攻、「個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）に概ね基づいている」と評価したものが１専攻であった。第２段階評価では、５専攻すべてにおいて「適切である」と評価された。

教務部：本年度、本項目において「個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に十分に基づいている」と評価であり、第２段階評価も「適切である」と評価された。

（お）各学位課程にふさわしい教育内容の設定　（＜学士課程＞初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等

学部：教養セミナー、人間力セミナー等の初年次教育を行っている。また、高大接続活動としては、一部の入学者を対象に入学前準備教育等を行っている。各学部の点検・評価の状況は次のとお

りである。昨年度は８学部において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「すべて十分に満たしている」と評価したものが２学部、「一部なされている」と評価したものが６学部であった。本年度、１０学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「すべて十分に満たしている」と評価したものが７学部、「一部なされている」と評価したものが３学部であり、「すべて十分に満たしている」との評価が２学部から７学部へ増加した。第２段階評価では、すべての学部で「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては改善がみられた。

研究科：専門分野への導入科目を設定するなど初年次教育に取り組んでいる。各研究科の点検・評価の結果は次のとおりである。昨年度は２専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「すべて十分に満たしている」と評価したものが１専攻、「ほとんどなされていない」と評価したものが１専攻であった。本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「すべて十分に満たしている」と評価したものが４専攻、「一部なされている」と評価したものが１専攻であり、「すべて十分に満たしている」との評価が１専攻から４専攻へ増加した。第２段階評価では、１専攻を除き「適切である」と評価された。

教務部：本年度、本項目において「一部なされている」との評価し、第２段階評価も「適切である」と評価された。

（か）学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施

学部：全学共通科目として「キャリア開発論Ⅰ・Ⅱ」を開設し、初年次からキャリア教育に努めている。その他、学部、学科の特性にあわせて取組を行っている。各学部の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は７学部において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「十分になされている」と評価したものが１学部、「ほぼなされている」と評価したものが６学部であった。本年度、すべての１０学部に自己点検・評価を行った結果、「十分になされている」と評価したものが６学部、「ほぼなされている」と評価したものが４学部であり、「十分になされている」との評価が１学部から６学部へ増加した。第２段階評価では、１０学部すべてにおいて「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては改善がみられた。

研究科：各研究科とも専門性を活かした職業的自立を図るのに役立つ授業を展開している。各研究科の点検・評価の結果は次のとおりである。昨年度は２専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「十分になされている」と評価したものが１専攻、「ほとんどなされていない」と評価したものが１専攻であった。本年度、すべての５専攻に自己点検・評価を行った結果、「十分になされている」と評価したものが４専攻、「一部なされている」と評価したものが１専攻であり、「すべてなされている」との評価が１専攻から４専攻へ増加した。第２段階評価では、１専攻を除き「適切である」と評価された。

教務部：本年度、本項目において「ほぼなされている」との評価し、第２段階評価も「適切である」と評価された。

●今後の課題

教育課程の体系的な編成や各学位課程にふさわしい教育内容の設定など、概ね適切に編成されて

いる。引き続き、すべての学部・研究科において適切な教育課程の編成に取り組むためにも、定期的な検証・確認を行う必要がある。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

(2) 各学部、学科又は課程では、シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）は適切に示されているか。また、授業内容とシラバスとの整合性は確保されているか。

学部：昨年度は７学部において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「十分に確保されている」と評価したものが２学部、「ほぼ確保されている」と評価したものが５学部であった。本年度、１０学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「十分に確保されている」と評価したものが４学部、「ほぼ確保されている」と評価したものが６学部であり、「十分に確保されている」との評価が２学部から６学部へ増加した。第２段階評価では、３学部を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては引き続き改善に取り組む必要がみられた。

研究科：昨年度は１専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「ほぼ確保されている」と評価であった。本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「十分に確保されている」と評価したものが４専攻、「ほぼ確保されている」と評価したものが１専攻であった。第２段階評価では、１専攻を除き「適切である」と評価された。

(3) 各学部、学科又は課程では、学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法に関して、具体的にどのように対応しているか。

学部：各学部、学科とも演習科目や実習科目を配置し、学生の主体的参加を促す授業を開設している。各学部、学科の点検・評価状況は次のとおりである。昨年度は８学部において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「十分になされている」と評価したものが１学部、「ほぼなされている」と評価したものが３学部、「あまりされていない」と評価したものが４学部であった。本年度、１０学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「十分になされている」と評価したものが３学部、「ほぼなされている」と評価したものが６学部、「あまりされていない」と評価したものが１学部であった。「十分になされている」との評価が１学部から３学部へ増加するとともに、「あまりされていない」との評価が４学部から１学部へ減少した。第２段階評価では、３学部を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては改善がみられた。

研究科：研究科においても演習科目や実習科目を配置し、学生の主体的参加を促す授業を開設している。各研究科の点検・評価状況は次のとおりである。昨年度は２専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「ほぼなされている」と評価したものが１専攻、「あまりされていない」と評価したものが１専攻であった。本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「十分になされている」と評価したものが４専攻、「ほぼなされている」と評価したものが１専攻であった。「あまりされていない」との評価がなくなり、改善がみられた。第２段階評価では、１専攻を除き「適切である」と評価された。

(4) 各学部、学科又は課程では、専門課程の授業に関し、授業形態に配慮した１授業あたりの学生数についてどのような対応がなされているか。

学部：一部の学科においては適正数を超過する状況はあるものの、概ね適正に管理できている。各学部、学科の点検・評価状況は次のとおりである。昨年度は７学部において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「十分になされている」と評価したものが１学部、「ほぼなされている」と評価したものが６学部であった。本年度、１０学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「十分になされている」と評価したものが４学部、「ほぼなされている」と評価したものが６学部であり、「十分になされている」との評価が１学部から６学部へ増加した。第２段階評価では、１専攻を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては改善がみられた。

研究科：すべての研究科において適正な管理ができている。各研究科の点検・評価状況は次のとおりである。昨年度は２専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「ほぼなされている」と評価したものが１専攻、「あまりされていない」と評価したものが１専攻であった。本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、５専攻すべてにおいて「十分になされている」との評価であった。第２段階評価では、すべての専攻で「適切である」と評価された。

(5) 各学部、学科又は課程では、履修指導はどのように行われているか。また、それは適切か。

学部：昨年度は７学部において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「非常に適切」と評価したものが１学部、「適切と言える」と評価したものが６学部であった。本年度、１０学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「非常に適切」と評価したものが７学部、「適切と言える」と評価したものが３学部であり、「非常に適切」との評価が１学部から７学部へ増加した。第２段階評価では、１０学部すべてにおいて「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては改善がみられた。

研究科：昨年度は３専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「非常に適切」と評価したものが２専攻、「適切と言える」と評価したものが１専攻であった。本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、すべての専攻で「非常に適切」との評価であった。第２段階評価においても、すべての専攻で「適切である」と評価された。

●研究科修士課程

・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施

研究科：本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「非常に適切」と評価したものが４専攻、「適切と言える」と評価したものが１専攻であった。

●今後の課題

学生の学習を活性化するための様々な教育の措置について、授業内容とシラバスとの整合性など概ね適切に編成されている。引き続き、すべての学部・研究科で適切な教育課程への取組を推進していくために、定期的な検証・確認を行う必要がある。

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

(2) 各学部、学科又は課程では、既修得単位は適切に認定されているか。

学部：昨年度は６学部において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「非常に適切」と評価したものが２学部、「適切と言える」と評価したものが３学部、「あまり適切とは言えない」と評価し

たものが１学部であった。本年度、１０学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「非常に適切」と評価したものが６学部、「適切と言える」と評価したものが３学部、「あまり適切とは言えない」と評価したものが１学部であり、「非常に適切」との学部が２学部から６学部へ増加した。第２段階評価では、７学部で「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては改善がみられた。

研究科：昨年度は２専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「非常に適切」と評価したものが１専攻、「適切と言える」と評価したものが１専攻であった。本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、すべての専攻で「非常に適切」との評価であった。第２段階評価では、すべての専攻で「適切である」と評価された。

教務部：本年度、本項目において「非常に適切」と評価し、第２段階評価は「適切でない」と評価された。

(3) 各学部、学科又は課程では、成績評価の客観性、厳格性を担保するためにどのような措置がなされているか。

学部：各学部、学科とも成績評価規程に則り、成績評価を行っている。また評価方法を記載したシラバスを公表することによって、客観性、厳格性を担保している。各学部、学科の点検・評価状況は次のとおりである。昨年度は９学部において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「非常に適切」と評価したものが２学部、「適切と言える」と評価したものが７学部であった。本年度、１０学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「非常に適切」と評価したものが２学部、「適切と言える」と評価したものが８学部であった。第２段階評価では、３学部を除き「適切である」と評価された。

研究科：研究科においても成績評価規程に則り、成績評価を行っている。また評価方法を記載したシラバスを公表することによって、客観性、厳格性を担保している。各研究科の点検・評価状況は次のとおりである。昨年度は３専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「非常に適切」と評価したものが１専攻、「適切と言える」と評価したものが２専攻であった。本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「非常に適切」と評価したものが４専攻、「あまり適切とは言えない」と評価したものが１専攻であった。第２段階評価では、１専攻を除き「適切である」と評価された。

教務部：本年度、本項目において「適切と言える」と評価し、第２段階評価も「適切である」と評価された。

(5) 各学部、学科又は課程では、学士の学位授与を適切に行うための措置がなされているか。（卒業研究や卒業論文など審査体制と方法）

学部：昨年度は３学部において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「十分になされている」と評価したものが１学部、「十分とは言えない」と評価したものが２学部であった。本年度、１０学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「十分になされている」と評価したものが７学部、「十分とは言えない」と評価したものが３学部であり、「十分になされている」との学部が１学

部から７学部へ増加した。また、「十分とは言えない」と評価した学部が２学部から３学部へ増加した。第２段階評価では、すべての学部において「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては引き続き改善に取り組む必要がみられた。

研究科：昨年度は１専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「十分になされている」と評価であった。本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、５専攻すべてで「十分になされている」と評価であった。第２段階評価では、すべての専攻で「適切である」と評価された。

教務部：本年度、本項目において「十分になされている」と評価し、第２段階評価も「適切である」と評価された。

●今後の課題

成績評価、単位認定及び学位授与について、概ね適切に実施されている。ただし、学位授与を適切に行うための措置が「十分とは言えない」と評価している学部が３学部あった。この学部については適切な措置を講じるよう、検証後の改善への取組が必要である。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

(1)各学部、学科又は課程では、各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標を適切に設定しているか。

学部：昨年度は全１０学部において本項目の自己点検・評価を実施し、「非常に適切」と評価したものが１学部、「適切と言える」と評価したものが４学部、「あまり適切とは言えない」としたものが３学部、「指標を設定していない」としたものが２学部であった。本年度も、１０学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「非常に適切」と評価した学部はなく、「適切と言える」と評価したものが７学部、「あまり適切とは言えない」としたものが２学部、「指標を設定していない」としたものが１学部であった。昨年度と比較して、「非常に適切」と評価する学部がない一方で、「あまり適切とは言えない」との学部が３学部から２学部へ、「指標を設定していない」との学部が２学部から１学部へ減少した。第２段階評価では、１学部を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては引き続き改善に取り組む必要がみられた。

研究科：昨年度は４専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「非常に適切」と評価したものが１専攻、「適切と言える」と評価したものが２専攻、「あまり適切とは言えない」と評価した専攻はなく、「指標を設定していない」と評価したものが１専攻であった。本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「非常に適切」と評価したものが２専攻、「適切と言える」と評価したものが１専攻、「あまり適切とは言えない」と評価したものが２専攻、「指標を設定していない」と評価した専攻はなかったため、すべての専攻で指標を設定したことから改善された。第２段階評価では、２専攻を除き「適切である」と評価された。

(2) 各学部、学科又は課程では、学習成果を把握及び評価するために、次の方法を用いているか。

（あ）アセスメント・テスト　　（い）ルーブリックを活用した測定

（う）学習成果の測定を目的とした学生調査　　（え）卒業生、就職先への意見聴取

学部：昨年度は全１０学部において本項目の自己点検・評価を実施し、「(あ)（い）（う）（え）のすべてを用いている」と評価したものが２学部、「(あ)（い）（う）（え）のうち３つないし２つは用いている」と評価したものが５学部、「(あ)（い）（う）（え）のうち１つは用いている」と評価したものが３学部、「(あ)（い）（う）（え）のどれも用いていない」と評価した学部はなかった。本年度も、１０学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「あ)（い）（う）（え）のすべてを用いている」と評価した学部はなく、「(あ)（い）（う）（え）のうち３つないし２つは用いている」と評価したものが６学部、「(あ)（い）（う）（え）のうち１つは用いている」としたものが３学部、「(あ)（い）（う）（え）のどれも用いていない」としたものが１学部であった。昨年度と比較して、「(あ)（い）（う）（え）のどれも用いていない」との学部が１学部へ増加した。第２段階評価では、３学部を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては引き続き改善に取り組む必要がみられた。

研究科：昨年度は４専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「あ)（い）（う）（え）のすべてを用いている」と評価した専攻はなく、「(あ)（い）（う）（え）のうち３つないし２つは用いている」と評価したものが３専攻、「(あ)（い）（う）（え）のうち１つは用いている」としたものが１専攻、「(あ)（い）（う）（え）のどれも用いていない」としたものが１専攻であった。本年度も、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果「あ)（い）（う）（え）のすべてを用いている」と評価した専攻はなく、「(あ)（い）（う）（え）のうち３つないし２つは用いている」と評価したものが２専攻、「(あ)（い）（う）（え）のうち１つは用いている」としたもの２専攻、「(あ)（い）（う）（え）のどれも用いていない」としたものが１専攻であった。昨年度と比較して、「(あ)（い）（う）（え）のどれも用いていない」と評価した専攻は１専攻で変化はなかった。第２段階評価では、３専攻を除き「適切である」と評価された。

●今後の課題

昨年度と比較して、学位授与方針に示された学習成果を的確に把握・評価する基準や方法の（１）（２）について、一部の学部・研究科で設定されていない。引き続き、各学部・研究科において、再度確認し、不十分な点をより積極的に取り組み、改善することが求められる。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

(1) 各学部、学科又は課程では、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に自己点検・評価を行っているか。

学部：昨年度は９学部において本項目の自己点検・評価を実施し、「行っている」と評価したものが５学部、「行っていない」としたものが４学部であった。本年度、１０学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「行っている」としたものが６学部、「行っていない」としたものが４学部であった。昨年度と比較して、「行っている」との学部が５学部から６学部へ増加した一方、「行っていない」と評価した学部は４学部のままで変化はなかった。第２段階評価では、２学部を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては引き続き改善に取り組む必要がみられた。

研究科：昨年度は４専攻において本項目の自己点検・評価を実施した結果、「行っている」と評価したものが３専攻、「行っていない」と評価したものが１専攻であった。本年度、５専攻すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「行っている」と評価したものが３専攻、「行っていない」と評価したものが２専攻あった。昨年度と比較して、「行っていない」と評価した専攻は１専攻から２専攻へ増加した。第２段階評価では、２専攻を除き「適切である」と評価された。

(2) 各学部、学科又は課程では、学習成果の測定結果の適切な活用を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

学部：昨年度は１０学部において本項目の自己点検・評価を実施し、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みの両方を行っている」と評価したものが２学部、「測定効果の活用、改善・向上へ一方のみ行っている」と評価したものが６学部、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みのいずれも行っていない」としたものが２学部であった。本年度も、１０学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みの両方を行っている」としたものが３学部、「測定効果の活用、改善・向上へ一方のみ行っている」と評価したものが５学部、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みのいずれも行っていない」としたものが２学部であった。昨年度と比較して、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みのいずれも行っていない」と評価した学部は２学部で変化はなかった。第２段階評価では、２学部を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては引き続き改善に取り組む必要がみられた。

研究科：昨年度の自己点検・評価において、すべての５専攻で実施した結果、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みの両方を行っている」と評価したものが２専攻、「測定効果の活用、改善・向上へ一方のみ行っている」と評価したものが２専攻、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みのいずれも行っていない」としたものが１専攻であった。本年度も、５専攻科すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みの両方を行っている」としたものが２専攻、「測定効果の活用、改善・向上へ一方のみ行っている」と評価したものが１専攻、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みのいずれも行っていない」としたものが２専攻であった。昨年度と比較して、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みのいずれも行っていない」と評価した専攻が１専攻から２専攻へ増加した。第２段階評価では、３専攻を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては引き続き改善に取り組む必要がみられた。

●今後の課題

教育課程及びその内容、方法の適切性に関する定期的な自己点検・評価やその改善への取り組みについて、昨年度と同様に多数の学部・研究科で実施していない。各学部・研究科において再検討すると同時に、具体的に改善案を提示し、推進することが必要である。

基準５ 学生の受け入れ

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

(1) 各学部、学科又は課程では、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定して公表しているか。

学部：本年度の自己点検・評価において、１０学部すべてにおいて実施した結果、すべての学部で「行っている」との評価であった。第２段階評価でも、すべての学部で「適切である」と評価された。

研究科：本年度の自己点検・評価において、５専攻すべてにおいて実施した結果、すべての専攻で「行っている」と評価であった。第２段階評価でも、すべての専攻で「適切である」と評価された。

(2)各学部、学科又は課程では、下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定

（あ）入学前の学習歴、学力水準、能力等の入学希望者に求める学生像

（い）入学希望者に求める水準等の判定方法

学部：本年度の自己点検・評価において、１０学部すべてにおいて実施した結果、「（あ）（い）のすべてを用いている」と評価したものが８学部、「（あ）（い）のうち１つは用いている」と評価したものが１学部、「（あ）（い）のどれも用いていない」と評価したものが１学部であった。昨年度と比較して、「（あ）（い）のすべてを用いている」との学部が２学部から８学部へ増加した。第２段階評価では、１学部を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては改善がみられた。

研究科：本年度の自己点検・評価において、５専攻すべてにおいて実施した結果、「（あ）（い）のすべてを用いている」と評価したものが３専攻、「（あ）（い）のうち１つは用いている」と評価したものが２専攻であった。第２段階評価では、１専攻を除き「適切である」と評価された。

●今後の課題

学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を、概ね適切に設定して公表できている。入学希望者に求める学生像や水準等が具体的に設定されていない学部があることから、全学的に検証し、公表できるよう組織的に取り組む必要がある。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

(1) 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

入学センター：昨年度の自己点検・評価において「学生募集方法及び入学者選抜制度ともに十分に基づいている」との評価であった。本年度も、本項目において「学生募集方法及び入学者選抜制度ともに十分に基づいている」との評価であった。第２段階評価では、「適切である」と評価された。

(2)入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備

入学センター：昨年度の自己点検・評価において「委員会及び実施体制のどちらかが不備である」との評価であった。本年度、本項目において「委員会及び実施体制ともに整備されているが、やや改良の余地がある」との評価であり、改善がみられた。第２段階評価では、「適切である」と評価された。

(3)公正な入学者選抜の実施

入学センター：昨年度の自己点検・評価において「公正に行われている」との評価であった。本年度も、本項目において「公正に行われている」との評価であった。第２段階評価では、「適切である」と評価された。

(4) 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

入学センター：昨年度の自己点検・評価において「一定のルールを決めており、十分に配慮されて公平に行われている」との評価であった。本年度も、本項目において「一定のルールを決めており、十分に配慮されて公平に行われている」との評価であった。第２段階評価では、「適切である」と評価された。

●今後の課題

特に留意すべき点はないため、今後も定期的に検証を行う。

Ⅳ　外部評価委員会による評価の概要

外部評価委員会による評価は、大学内で行われた自己点検・評価（第１段階評価及び第２段階評価）の結果を受け、その自己点検・評価が適切に行われているか否かを評価するものである。本年度の結果は、以下のとおりである。

（１）基準２　内部質保証について

自己点検・評価は、概ね適切に行われている。

（２）基準４　教育課程・学習成果について

自己点検・評価は、概ね適切に行われている。

（３）基準５　学生の受け入れについて

自己点検・評価は、概ね適切に行われている。

総評

昨年度の課題であった項目については、積極的に改善・向上に取り組んでいる。また、FD 研修の継続、高大接続活動を活かした入試制度の導入など、18 歳人口の減少に向け、教育の質保証や新たな取り組みにも着実に取り組んでいる。

Ⅴ　自己点検・評価委員会名簿　（学内）

Ｎｏ．	氏　名	役職等
1	江藤　秀一	学長
2	安藤　雅之	副学長（静岡）
3	窪田　眞二	副学長（静岡）
4	磯貝　香	副学長（浜松）
5	出口　憲	教務部長
6	伊東　明子	学生部長
7	河田　賢一	学長指名
8	兒玉　彦一郎	学長指名
9	小田　寛人	短大部小委員会代表
１０	河上　泰英	事務局長
１１	大島　剛	学長室次長
１２	林　　啓子	法人本部事務局長